

2022年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生の感想

●普段からラジオを聴くわけでもなく、ラジオに関する知識がほとんどない状態ではじめてメディア・リテラシー演習でしたが、私がいまにもラジオに対する知識をもっていないことに気がつき、作家という役割としてよい番組を書くことができないかもしれないという危機感を覚えたため、この授業のために登下校でラジオを聴くというのが気がつくと習慣になっていました。ラジオを聴くようになって、ラジオはテレビと比べて、より番組に視聴者が没入しやすいメディアであると気がつき、問いかけなど、没入を促せるように工夫しました。番組を視聴した見城先生からの（中略）「インタビューの順番を入れ替えていましたか」という質問が私にとっては非常に印象的でした。確かに、回答の並べ方によって視聴者の受ける印象はまったく別のものになると思うし、視聴者としては、制作者の意図が込められているかもしれないということを理解していることが重要になると改めて確認することができた。ジェンダー問題という非常に難しいテーマで番組を制作することに挑戦しましたが、結果として、すべての班でよい番組が完成し、ジェンダー問題に関する理解も深めることができたため、勉強になったと感じています。

●録音番組の制作と生放送番組の制作は、話し合う内容も、ナレーションの原稿も、異なるところがありましたので、一つ一つが新鮮で、とても面白かったです。録音番組の制作では、（中略）どのようにインタビューの素材を使うか、どのようなナレーションを入れるのかなど、逐一グループで話し合う必要があり、そのたびに悩まされましたが、納得のいくものになったときにはとても達成感を感じました。一方、生放送番組の制作では、ゲストからどのような話を聞けば面白い内容が聞きだすことができるのかを考えるというのに時間を費やしましたので、ラジオ番組制作の大変さをしみじみと感じました。しかし、（中略）グループで納得のいくまで話しあったことで、事前のインタビューでは様々な話を聞きだすことができ、生放送に活かすことができたと思います。その点はしっかりとディスカッションをしてよかったと思いました。

●この授業を通してメディア・リテラシーが得られたと思います。昨今、メディアがとても身近なものになり、情報の伝達の速度が上がっていると感じます。フェイクニュース問題を耳にしたり、事実とは異なることでSNSなどが炎上しているのを目にしたりすることが多々あり、私は事実を報道するべきであるのになぜそれが行われないのだろうかという疑問に思っていました。しかし番組を制作する上で、まず伝えたい「事実」が先行していて、それに基づき番組を構成しているのだと気がつきました。編集をする際は当初のインタビューの順番とは入れ替えたりして、私たちは聞き手にいかに伝わりやすいものにするかということに重きを置いていたため、制作の途中では事実を変えていることに気がつきませんでした。実際に番組制作を行わなければこれに気がつくことができなかったと思います。情報の送り手を体験できたことで、メディア・リテラシーを得られました。



●私は、何年か前に好きなアーティストのラジオ番組を毎週聴いていただけで、ラジオの世界にくわしくはありませんでした。（中略）講義はラジオ番組制作だったので、（中略）昔とは確実に聴き方が変わったと思います。それは、音楽を聴く際に、初めはギターだけしか聴こえなかったのが、次第にベースなどの聴こえづらい音が聴こえるようになるのと似た感じだと思います。また、毎週ラジオについて話を聞いたり、話し合ったりすることで、ラジオをより身近に感じるようになりました。苦手なチームワークも、優しいメンバーのお陰で何とか最後まで参加することができました。原稿を読み直したり、音源を聞き合ったりして最終の形にできたときは、他の授業では感じられない達成感がありました。

●この授業は番組を制作するというこれまでの授業にはないもので、チームのみんなもいきいきと話し合いをしたり作業に参加したりしていました。それが最も楽しかった点だと思います。私の班は番組の尺が想定より長くなってしまい、たいへん苦労しました。しかし、インタビューの間をカットするなど、工夫をして、規定の尺に収めることができたときにはとても嬉しく思いました。実際の作品が（中略）ラジオから流れてきたときにはとても緊張しました。そして、自分たちの担当した作品の放送が終わったときには達成感が残りました。

●私は内向的で、外部に対して積極的に情報を取りに行くということを普段はしません。今回は番組を制作しなければならないというある程度の強制力によって、いろいろなところに取材をさせていただきました。実際に取材に行ってみると、いただいた資料や自分が調べた資料からではわからないような雰囲気を感じ取ることができ、取材の内容以上のことを自分にインプットすることができました。これは、番組を聞くという受動的な情報の集め方では絶対にできないことだと思います。自分の興味があることについて、インターネット検索やメディア報道に触れるだけではなく自ら足を運ぶことでわかることがあるという学びを得ました。

